

第8回 航空機運航のDX推進に向けた検討会 議事概要

日時： 令和4年11月25日(金)11:30 ~ 14:50 Web会議

<1.開会 交通管制部長挨拶>

これまで本検討会で活発な議論・発表を行っていただき、この場を借りて御礼申し上げます。8回目の開催となる、「小さくてもうれしいことを作っていく」のキーワードは非常にいい取り組みだと思っている。本検討会は、自由な意見交換の中で実質的な議論もあり、ぜひお客様・現場目線で実効性を持って進めていければと考えている。本日は、冒頭 SWIM の整備状況、3つのテーマについて各個別課題の取り組み状況の発表・意見交換が行われると聞いている。これまで同様に活発な議論がされることを期待している。

<2.議事>

(1)これまでの活動状況について

①SWIM 整備の進捗状況

資料1を事務局から説明

②個別検討経緯

資料2を事務局から説明

(2) 個別課題の取組状況

・地方空港発の次世代イノベーション創出について

○路面のひび割れについては、ドライブレコーダーで検知できると思うが、飛行機から落ちた小さいねじやシールなども検知できるのか。

⇒ドライブレコーダーを使った技術実証においては、ねじなどは対象外。あくまで路面のひび割れや轍を検知する技術となっている。一方で、ねじなどの検知は別の技術を使って取り組みたいと考えている。例えば3Dライダーや電波技術をドライブレコーダーの技術と組み合わせることで滑走路全体の維持管理をしたいと考えている。

○画像だけだとねじなどの検知は難しいのか。

⇒ドライブレコーダーによる検知は、AIに異物であることを学習させ、認識させることで検知することができる。ひび割れも同様にAIに学習させればよいが、異物となると種類や大きさなどの学習量が多く、何を異物とするかの選定や学習時間に多くの労力と時間を要する。そのため、別の技術を考えている。

○第3回の二次交通の拡充について、どのような議論がされたのか。

⇒一つは、平常時の公共交通についての議論があり、タクシー利用時のサービスについてご紹介があった。もう一つは、災害時における議論として、二次交通への情報の提供方

法等について問題提起があった。

・申請手続きデジタル化について

○緊急時に電話を利用することもあると思うが、今後、SWIM でデータを共有することによって電話でのやりとりは減ってくるのではと思う。申請者側や受取側で議論を深めてお互いに効率的に作業を進めていけるようにできれば良いと感じた。

○それぞれの課題については、関係者からすぐに意見が出てきたのか。

⇒実際の現場の中で、いろいろと意見があった。最初はユーザー側の視点から課題出しを行っていたが、管理者側の視点からも様々な課題が上がってきた。課題としては顕在化していたが、意見交換する場がなかったのではと感じた。

○他にもまだ課題はありそうか。

⇒現在は、申請の手続きの効率化について議論しているが、他の手続きもまだまだ課題はあると思う。ただそういった課題も、今回の解決策、アプローチを応用できると考えている。

⇒リーダーとして参加できることに感謝。各課題については、ユーザー側と管理者側で議論できることは非常に有効的であると感じている。また、航空局所掌以外の業務との関連性についても、スコープしていきたいと考えている。

・リアルタイム情報共有の改善について

○システムを構築するうえで、どういう情報が必要なのか等の整理が必要になってくると思う。また、有事の際やオリンピック、パラリンピックなどのイベントの際には、リアルタイムの情報共有が重要になってくると思うので、どういうシステムにするかなどはしっかり進めていければと思う。

○どんな雰囲気議論を進めているのか。

⇒現場に携わっている方に参加いただいております、具体的な課題や意見が出てきている状況である。また、空港ごとでも様々な課題があるように感じる。これらの課題の解決策については、まだ方向性が定まっていない部分もある。

⇒他の二次交通やエアラインのデータをリンクさせることを考えると SWIM からダウンロードするだけでなく、アップロードするような仕組みや他の 2 次交通事業者と連携するような仕組みを考える必要があると思う。

<3.閉会 森川座長>

○一歩一歩進めていくためには、いろいろな方が一緒になって議論していくこと、既存の考え方にとらわれず、新しい世界があることを信じながら取り組んでいくことが重要だと思う。皆様のお力添えを引き続きいただきたい。また、国に対しての要望があれば、引き続きインプットいただければと思う。

以上